

# まちづくりビジョン策定委員会（第15回）会議録

■ 日 時：平成26年8月1日（金）午後2時30分～午後5時10分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（10／13名）

小林 洋、河合 生博、小野 章一、鈴木 和雄、持谷 美奈子、中島 エリ、  
渡辺 一彦、高橋 直也、本多 圭仁、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（2／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、エコパーク推進室 主査 大川 志向

■ 配布資料

なし

■ 会議内容

---

## 1 開会

## 2 議事

### （1）水源地対策について

- ・首都圏の水瓶である藤原地区には4つのダムがあって、有事の際に迅速に復旧復興できる体制を整えておく必要がある。この地域の安全が確保されないようであれば、首都圏の安全は確保されない。現状、藤原地区に通じる道路は県道水上片品線しかないが、複数本確保する必要がある。沼田市の玉原地区から通じる玉原道路の建設に向けて期成同盟会が活動している。また、玉原道路を既存の望郷ラインと繋げ、利根沼田を一周する環状道路とすることで、利根沼田地域の再開発にもつながる。建設予定地はユネスコエコパークのトランジションエリアとなる予定。

### （2）健康・福祉部会での審議内容について

- ・ 7月15日（火）に石川県金沢市の「シェア金沢」を見学させていただいた。施設ではさまざまな人が支え合い共に暮らす街を目指して、総面積約11,000坪の敷地内に児童入所施設、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅、商業施設等が混在している。学生や商業施設の住人は、家賃が格安である代わりに商品（料理教室・音楽・芸術・スポーツ・マッサージなど）を障害児、高齢者に提供。また、商業施設を施設外住民にも開放することで、一般市民との交流を促進している。
- ・「シェア金沢」は都市部に位置し、周辺に医療施設や商業施設、住宅街があるなど環境としては非常に恵まれており、本町とは条件がかなり異なる。同様の施設を整備する必要はないが、考え方や仕組みとして参考になった。
- ・部会では高齢者向けテーマパークタウン構想の策定を進めると同時に、事業者を選定するために必要となる具体的な実行案（候補地、施設の規模や整備方法など）の検討を進める。現段階では、候補地として温泉を活用できる場所、建設と運営主体は民間事業者、機能として介護施設や医療施設との連携を考えている。

### （3）サッカー場視察研修の報告について

- ・ 7月15日（火）に石川県七尾市のサッカー場を見学させていただいた。七尾市では、宿泊施設周辺に合宿客に特化したサッカー場やテニスコートを建設したり、人数や宿泊数に応じて合宿費用を助成したり、合宿客誘致を積極的に展開している。自動車で大阪や名古屋から約4～5時間、東京から6～7時間に位置し、全国から合宿客が訪れる。
- ・施設整備（初期投資）としては、各種補助金や過疎対策事業債などを有効に活用することで、財源を捻出できる。運営費については、宿泊客数の増加などの効果が見込まれるため、利益を得る必要はないが、赤字は避けるべきである。観光部会で経済合理性の検討を行うこととする。
- ・合宿等を誘致するためには並列した2面以上のコートが理想的であって、サッカーでは5,000坪以上の面積を要するために候補地が限定される。また、宿泊施設からの移動にバスを利用することはかなりのマイナス要因で、徒歩で行ける場所がよい。
- ・観光のオフシーズンに誘客しなければならないため、9月は大学生、平日はセミプロというようにやり方を検討する必要がある。また、週末でも稼働率の低い季節もあるし、地の利を活かせば週末だけでも需要は見込めるのではないか。さらに、冬期は温泉熱を利用して融雪すれば通年での施設利用が可能となるし、インパクトもある。8月の稼働率は現状でも高いため、逆に考えれば日帰り利用でもよいのかもしれない。
- ・スポーツを産業振興に活用するアイデアはよいので、サッカー以外の競技を検討してもよいのではないか。
- ・目的は宿泊客数を増やすことであるから、日帰りされないための工夫が必要。同程度のレベルの相手と練習試合を組む（マッチメイク）などの質の高いサービスが提供で

できれば魅力となるし、先進地では荒天時の代替プログラムが用意されている。

#### (4) ユネスコエコパークの登録について

- ・登録に向けて最も大切なことは、町全体のコミットメントを高めること。年間スケジュールを作成し、メディアやリーフレットなどを活用して戦略的に行う。横のコミュニケーションを活発にし、まずは内部から固めていく必要がある。
- ・即戦力となる人材を確保し、人的体制を整えることが登録の最低条件。また、登録後の取り組みが大切で、計画が実行されていなければ登録抹消となる可能性もある。

#### (5) 観光部会での審議内容について

- ・前回までに検討された実行案は最終的なテクニックの部分であって、それ以前に、実行するための体制を整える必要があるのではないか。役場内、観光関連組織内での情報の共有や方向性の統一を行い、役割を明確にする必要がある。
- ・観光関連組織が乱立しているが、町としての方向性を共有し統一するためにも、役場（観光課）が主導権を握って強烈なリーダーシップを発揮する必要がある。また、ユネスコエコパークの理念を理解していないと、観光分野として何ができるかの議論もできないため、今後の委員会に関係課にも出席してもらってはどうか。
- ・藻谷氏の講演会でもあったように、地産地消を徹底することでお互いの商品の価値を高め、客単価をあげる仕組みを構築する。食材だけでなく多くの人材、食器、家具など、なるべく多くの地産商品を利用し、地元に着る部分を拡大していく。徹底できないと武器になりにくい。宿泊施設からは、地元の食材を利用したいし、農家との調整役がいると利用しやすいとの意見も出されている。
- ・今後は、時間的に自由で金銭的に余裕のある65歳以上の人口が圧倒的に増えていくため、メインターゲットに見据えてはどうか。混み合う週末よりも、サービスが充実し自然を満喫できる平日を望む傾向にあるし、平日の方が宿泊料金も安い。平日と週末の格差を埋めることで雇用と収益の安定、向上が見込める。週末集中型ではおもてなしを含め人的サービスや空間的サービスが不足してしまう。週末は現役世代や土日休みの子育て世代のお客ですすでに飽和状態に近いため、満足度を高めることに務める。
- ・町内の商店の多くが水曜か木曜定休となっており、案内することができない。町内の事業者が連携できていない一つの事例であって、町全体を見ている人がいない。横のつながりを強化する必要がある。

#### (6) ふるさと納税について

- ・本町ではふるさと納税の用途を条例によって定めており、ユネスコエコパークの理念とも合致している。町出身者やゆかりのある人が寄付したくなるようなビジネスプランを作って、プロモーションもしっかり行うべき。また、理念だけでは働きかけとし

ては弱いので、特産品や商品券などの特典をつけるべきではないか。例えば、市価で寄付額と同等の特産品をお返ししたとしても地域の経済は潤うし、宿泊券をお返しすれば複数人で来町するきっかけとなる。

- ・ 次回の委員会ではふるさと納税の担当課職員を招聘し、具体的な実行案を検討する。

#### (7) 役場の組織改革について

- ・ 策定したビジョンが絵に描いた餅で終わらないためにも、実行の主体である役場組織の改革に触れざるを得ないのではないかと。組織がピラミッド型ではなく、町長や副町長をトップにした文鎮型となっており、横の連携が取りづらくなっている。また、いろいろな考えをもった職員はいるわけだから、上司の命令だけではなく、そういった職員からの提案が実現するような組織となるべき。
- ・ 現状は職員がいろいろな方向を向いてしまっている。一つの方向性としてユネスコエコパークの理念を共有することが必要で、照葉樹林などの現地を一度見てみるべきではないか。いろいろな業務に直接ベネフィットがある。

### 3 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：8月29日（金） 午後2時30分から

場所：観光センター 2階 第1会議室

### 4 閉会